

主な内容

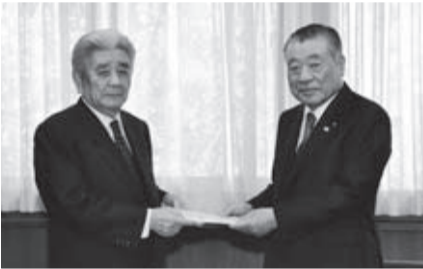
- 2 面 子ども手当の支給月と現況届
- 7 面 歯と生きがいに関する調査結果報告
- 8 面 6月30日(休)は住民税の納期限(第1期)
震災により影響を受けた中小企業者を
対象に「東日本大震災復興緊急保証」
を新設

発行/江戸川区 ■編集/広報課 〒132-8501 江戸川区中央1-4-1 ☎(3652)1151(代表) FAX(3652)1109 ホームページ <http://www.city.edogawa.tokyo.jp/>

東日本大震災 被災地に寄せる区民の思い 3億4,800万円の義援金

東日本大震災に伴い、区に寄せられた義援金は、「江戸川区連合町会連絡協議会」が、町会・自治会などを通じて募った2億1,008万2,859円と区の窓口でお預かりした1億3,772万4,026円(5月25日現在)の総額3億4,780万6,885円となりました。

区内に10地区ある連合町会・自治会連合会の会長で組織する「江戸川区連合町会連絡協議会」では、「被災された方々のために何とかしたい」との発案で、284の町会・自治会を中心に活動を呼びかけ、4月1日から約1か月間実施しました。



■西野会長(左)から義援金の目録を受け取る多田区長

5月20日、西野博連合町会連絡協議会長をはじめとする10名の連合町会長が来庁し、多田区長へ活動報告と義援金の目録を手渡しました。

西野会長より、「被災地の状況は本当に大変。江戸川区の心を贈ろうと、みなさんの努力で集まったものです」との報告が

ありました。これを受けて多田区長は、「地域のみなさんの連携と絆と心意気の賜物」と、感謝の意を述べました。

一方、86か所に設置した区の窓口には「復興支援の一助に」と、区内の事業者や文化・スポーツ団体をはじめ、多くの方々の被災地に寄せる善意が集まりました。

お預かりした義援金は配分を検討し、近日中に被災地へ届ける予定です。

☎ コミュニティ係 ☎(5662)0510 / 総務係 ☎(5662)6194



■区の窓口にも温かい気持ちが

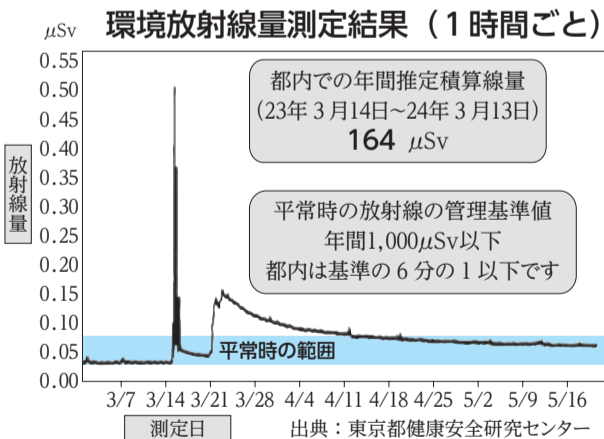


■児童のみなさんも登校時に活動

都内の放射線量は平常範囲です

●健康への影響がない数値です

東京都健康安全研究センターでは、福島第一原子力発電所の事故後の大気や降下物(ちりや雨)、水道水の放射線量を測定し、公表しています。いずれの測定結果も、国の厳しい基準に照合して、健康への影響がない数値でした。全国のほとんどの地域も同様です。



放射線量を正確に測定するため、さまざまな影響を受ける地表付近を避け、地表から18mの地点で測定しています。3月15日は1時間平均で0.496 μSv(マイクロシーベルト)でしたが、4月20日以降は平常時の0.028~0.079 μSvの範囲に戻っています。なお、地表から50cmの地点も4月26日に測定していますが、数値は0.08 μSvで、地表18mの0.07 μSvと比べてもほとんど差はありませんでした。

●年間推定積算線量は基準の6分の1以下

東京都健康安全研究センターでは、放射線量の推移や屋内・外の生活時間から積算し、1年間に受ける放射線量を164 μSvと推定しています。この数値は、国際放射線防護委員会が定めた「年間1,000 μSv以下」という基準値の6分の1以下です。

区では、今後もこれらの測定結果をチェックし、必要な対応を実施していきます。

☎ 感染症第二係 ☎(5661)2476

夏場に向けて 更なる節電にご協力を

気温が上昇する夏場は、電力の需要が大幅に増加し、特に、平日の9時~20時には供給が不足する恐れがあります。そこで、政府は15%の節電目標を掲げました。

現在の節電効果は、各企業や区民のみなさまの努力によるものです。区は、区民の経済活動を最優先と考え、区民施設の夜間利用の一部中止、区民施設の照明や街路灯の一部消灯などの節電対策を実施しています。区民のみなさまには引き続き、最大限の節電にご協力をお願いします。

現在、効果的な節電に向けた基本的な考え方と具体的な計画を策定しています。詳しくは、今後の広報えどがわなどでお知らせします。

江戸川区長 多田正見



震災で甚大な被害を受けた宮城県仙沼市に区から多くの支援職員を派遣していることもあり、過日、現地を訪ねました。その凄まじい惨状は、まさに目を覆うほどのものでした。

地震、津波、台風、火山の噴火。日本列島はその歴史の中で幾多の災害に繰り返し見舞われ、その都度、人々は悲惨な苦痛を味わってきました。次なる災害に備え、人知の及ぶ限り対策を講じて、その努力が一瞬にして打ち砕かれることが幾度もあったことでしょうか。有史以前のことには知る由もありませんが、今回、東日本を襲った大災害は、今を生きる我々が受けてきたことを得ない試練です。

一方、東北・関東地方は、平時にあっては太平洋の豊かな海原や風光を、自然が与えてくれた何よりの贈り物として享受してきたことも事実です。むしろその恵みにより、日本人独特の自然観や文化観を養うことができました。私たちの心の中には、自然を畏怖すると同時にこよなく愛する、その両面が存在しています。震災に直面した日本人の冷静さや秩序が、諸外国から大きな称賛を受けていますが、それもこのような自然観の中で培われた「心の遺産」なのでしよう。

歴史は繰り返すと云われます。災害も繰り返して来ると考えれば、先人がそうであったように、その苦難を逞しく乗り越えていく勇氣が私たちにもあるはずだと、いつの日か、再び平穏な海を取り戻す日まで。頑張りましょう。